

単位: %

		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	萎黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	ハスモンヨトウ幼虫	アザミウマ類(花)	備考
ほ場率	発生ほ場数	8	4	0	6	15	36	18	0	34	総調査ほ場数: 66か所 総調査株数: 1,650株 花調査ほ場数: 66か所 総調査花数: 3,300花 (調査株数 25株 (調査花数 50花)) ※平年比 = (本年平均値 / 平年値) × 100 ※アザミウマ類の調査は花調査かつ平年値は過去5年の値 ※調査株数にカウントされるほどではないが、ほ場内で発生が見られる場合は散見として発生ほ場数にカウント ○今月の病害虫発生状況○ ・炭疽病、萎黄病が散見されるほ場が多く見られます。 ・アブラムシ類が発生しているほ場が多く見られます。 ・アザミウマ類の発生は平年並ですが、発生量が多いほ場が見られます。
	本年平均値	12.1	6.1	0.0	9.1	22.7	54.5	27.3	0.0	51.5	
	平年値	0.5	13.1	7.8	6.3	10.4	59.0	45.4	0.1	55.7	
	平年比	2420.0	46.6	0.0	144.4	218.3	92.4	60.1	0.0	92.5	
株率	発生株数	0	0	0	0	34	138	87	0	190	
	本年平均値	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	8.3	5.3	0.0	5.8	
	平年値	0.0	1.1	0.7	0.1	1.4	22.7	14.4	0.0	4.7	
	平年比	-	0.0	0.0	0.0	150.0	36.6	36.8	-	123.4	
発生程度	多	やや少	少	少	やや多	多	平年並	平年並	少	平年並	
概評	平年並	やや少	少	平年並	多	平年並	平年並	平年並	少	平年並	

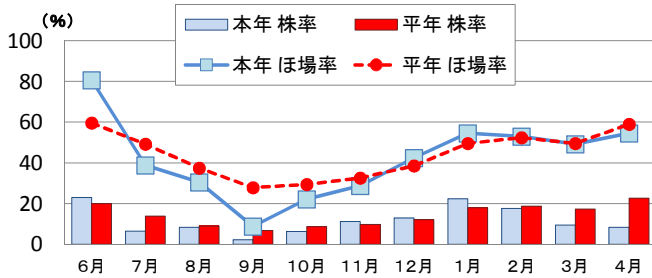


図1 ハダニ類発生ほ場率・株率

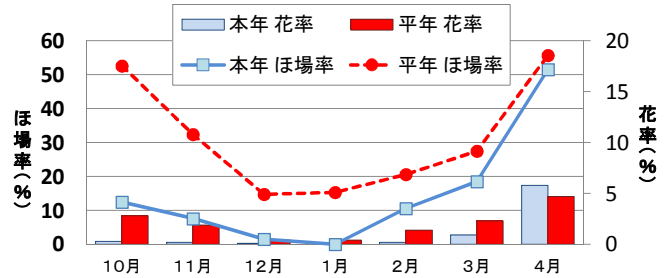


図2 果実加害性アザミウマ類発生ほ場率・花率

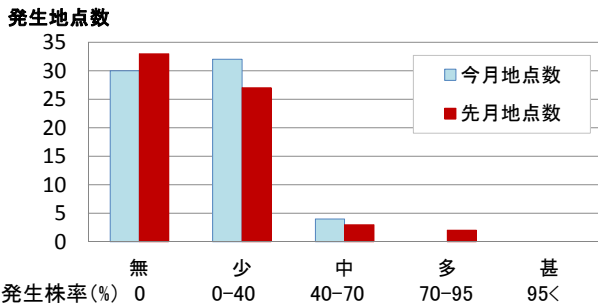


図3 発生程度別の地点数(ハダニ類)

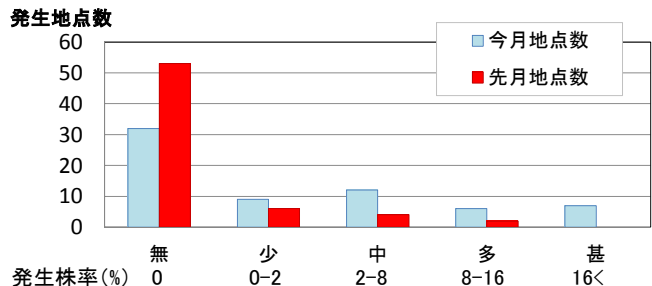


図4 発生程度別の地点数(アザミウマ類)

## ○ハダニ類対策

- ・ハダニ類は下葉の裏にすることが多いので、必要に応じて葉かきを行い、薬剤が葉裏にもかかるように丁寧に散布する。
- ・化学農薬に対する感受性低下が著しいため、必ずローテーション散布を行うとともに、抵抗性が発達しない気門封鎖剤や天敵製剤を活用する。
- ・カブリダニ剤の追加放飼を行う際にハダニ類の発生が目立つ場合は、薬剤を散布してから放飼する。
- ・気門封鎖剤は卵には効果が低いため、複数回、十分量を散布する。
- ・天敵放飼から1~2週間は薬剤散布を避ける。
- ・薬剤感受性検定結果を当センターホームページに掲載中。

## ○アザミウマ類対策

- ・発生が見られたら、低密度のうちにカウンター乳剤やマッチ乳剤[カンキョウアザミウマ]等のIGR剤で増殖を防止する。
- ・花を観察して、その1割以上でアザミウマ類が見られた時は、被害が大きくなるおそれがあるため、スピノエース顆粒水和剤かディアナSCを散布する(天敵やミツバチへの影響があるので注意する)。
- ・植物防疫ニュース(速報No.14)、薬剤感受性検定結果(続報)を当センターホームページに掲載中。



写真 いちごの花に寄生するヒラズハナアザミウマ

## ○今月の技術情報(技術指導班)○(4月)

- ・4月になり、引き続き気温の高い状況が続いています。一方、日照時間は少ない状況であり、いちごの生育は株によるバラツキが見られます。
- ・害虫はアブラムシ類の発生が平年よりも多く見られ、ハダニ類、アザミウマ類は平年並になっています。病害は平年並またはやや少ない傾向にあります。
- 今後、不順な天候が続くと、病害虫の発生が懸念されます。今後の適切な防除が今シーズンの出荷量、収入に大きく影響を与える可能性があります。
- ・引き続き、ハウス内の適正な温湿度管理、下葉かきなど環境整備に努め、最後まで良好な生育、品質の良いいちごの生産に努めましょう。
- ・一方、次年産親株の管理が始まりました。作柄安定には良質苗の確保が重要です。親株ハウスの温度やかん水管理を徹底するとともに、特に、28年産では炭疽病の発生が多く見られましたので、本日から病害虫を持ち込まないように十分注意しましょう。